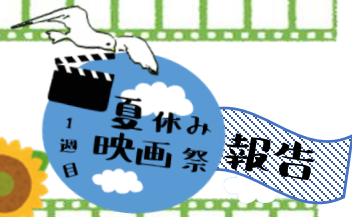


夏休み映画祭



1週目 映画上映会&宇佐美まこと先生スペシャルトーク

開催日 令和4年7月23日(土) **午前の部** 9:30~11:50 (上映のみ)
午後の部 13:00~16:05 (上映+スペシャルトーク)



上映作品

『ストーリー・オブ・マイライフ わたしの若草物語』
(2019/アメリカ/135分)

ストーリー

しっかり者の長女メグ、活発で信念を曲げない作家志望の次女ジョー、内気で繊細な三女ベス、人懐っこく頑固な末っ子エイミー。女性が表現者として成功することが難しい時代に、作家になる夢を一途に追いつづけていたジョーは、性別によって決められてしまう人生を乗り越えようと想いを寄せる幼なじみローリーからのプロポーズにも応じず、自分が信じる道を突き進もうとしていたのだが……。南北戦争時代に力強く生きるマーチ家の4姉妹が織りなす物語。

© 2019 Columbia Pictures Industries, Inc., Monarchy Enterprises S.a.r.l. and Regency Entertainment (USA), Inc. All Rights Reserved.

午後の部 トークショー

テーマ「読む人から書く人へ私の人生と小説」

執筆のもとになった風景や体験、小説への思いなどを4冊の自身著作を題材に映画の内容も交えてお話しくださいました。

トークゲスト 宇佐美 まことさん(作家)

1957年愛媛県生まれ。松山市在住。2006年『るんびにの子供』で第1回『幽』怪談文学賞(短編部門)大賞を受賞し、07年『るんびにの子供』でデビュー。17年『患者の毒』で第70回日本推理作家協会賞(長編及び連作短編集部門)を受賞。20年『展望塔のラヴンツェル』で山本周五郎賞候補に。他の著書に『熟れた月』『骨を吊う』『ボニン浄土』『羊は安らかに草を食み』『子供は怖い夢を見る』『月の光の届く距離』『夢伝い』など。作品は、ホラー、怪談、ミステリーと多岐にわたる。



参加者の声

とても感動しました。
(40代女性・午前の部に参加)

人間の心の奥にふれた。感動しました。(70代男性・午前の部に参加)

松山在住ということもあり親しみが持てるお話が楽しかった。
(50代女性・午後の部に参加)

創造力の話が特に良かったです。(60代男性・午後の部に参加)

四姉妹の人生が楽しそうで、またそれぞれ大切にしていることやりたいことを全うしているように感じました。家族や友人の関係性についても良好で憧れるようなものだったから。(20代女性・午前の部に参加)

本を書いた動機などを聞いたので、もう一度、読み直してみたいです。(60代女性・午後の部に参加)

アンケートにご協力いただきありがとうございます。



トークショーで、紹介された4冊

たからもの

図書コーナーに所蔵されている宇佐美先生の図書『月の光の届く距離』にサインを頂きました。